

ささえあい

病院の理念 「患者本位の医療」

基本方針

患者さまの意思を尊重し、
信頼される医療を提供します。
地域中核病院として、
高度な医療と救急医療の充実に努めます。
急性期病院として関係機関と連携し、
地域医療の充実を目指します。

「ささえあい」創刊号によせ

病院長 鈴木 忠



立春を迎えたとはいえ、寒さ厳しい日々の続くなか皆様方におかれましてはご健康により一層ご留意され健やかに過ごされますことを願います。

当院は地域の要望と先達のはたらきにより産声を上げて50数余年地域の多くの方々のご支援により42床の病院から600余の職員が働く395床の病院に成長してまいりました。

さて、地域医療において喫緊の課題は、長年の厚労省の誤った判断と施策により地域医療の中心的担い手である公的病院が存続の危機に瀕していることです。その根幹は自治体の財政悪化に加え病院勤務医不足にあります。

当院においても耳鼻咽喉科などの診療科では入院治療のできない状況で、皆様にはご不便をおかけしております。現在、脳卒中、心筋梗塞、小児周産期などの救急医療にたいしては最後の砦として近隣の医療機関と連携し診療体制を維持しておりますが、それも各医師の過重労働の違法状態の上で成り立っているのが実情であります。銚子市民病院閉院の事例もあります。医師が病院を去ってからでは手遅れです。日本各地で、誰にも等しく診療機会を保障できない状態となってきたことにより世界に誇る国民皆保険制度も綻び始めております。国はいままでの「医師不足はない」との見解を急に撤回し医学部定員増を打ち出しましたが、その効果がでるのは10年先です。限られた医療資源を当地域で枯渇させないためには多少の不便・不自由もよとする文化の醸成が求められます。そのためには利用者の皆様と医療提供者である病院が互いに病院医療の実情を理解しあい、よきパートナーとなること「ささえあい」が必要です。当院は理念である「患者本位の医療」の実践にさらにつとめてまいりますが、これは病院職員の立場も尊重される環境にあつてこそ実現できることであります。地域の皆様の要望に応えられていないことも多々あります。今後、診療科の問題も含めより充実をめざし、将来につながる病院として改革に取り組んでいきます。「ささえあい」とおして病院の実情と種々の取り組みを紹介し、また皆様から頂いた貴重なご意見も掲載し、「ささえあい」が題名にふさわしい相互理解の情報語となることを願っております。



発刊にあたって



看護部長 五十嵐 克子



新春の候、皆様におかれましてはますますご健勝の事とお慶び申し上げます。

日頃より当院の病院事業および活動に対しご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

職員一同、心より感謝申し上げます。

このたび、地域の皆さんに向けた情報語「ささえあい」を発刊することになりました。医療情勢の厳しさが増す中、安心・安全な医療の提供、医療の質向上と効率化が求められておりますが当院の活動状況や各部門の取り組み、各医療機関との機能分担と連携、医療制度改革などに関連した情報などを発信することで皆様が安心して生活できるよう「情報公開」の一翼を担うのが「ささえあい」です。皆様にも主体的に参加して頂くことで、ご利用者の方々の立場に立った地域医療体制の確保、医療・福祉サービスの充実に繋がると考えています。

「ささえあい」が皆様の健康増進に寄与する情報語に発展することを期待して、地域の課題や住民のニーズに向き合い協同して取り組んで参りたいと思います。皆様のご意見を心よりお待ちしております。

脳卒中



『脳卒中の予防と治療』

公立藤岡総合病院 脳神経外科 甲賀英明

脳卒中とは脳の血管が破れたりつまったりする病気です。予防できる病気とされていますが、患者さんは増加しています。このため予防啓発を目的として平成20年11月29日にみかぼみらい館において第一回の群馬県脳卒中協会群馬支部の市民公開講座が開かれました。ここではその講演からの抜粋を紹介しましょう。

脳卒中には脳梗塞、脳出血、くも膜下出血があります。脳梗塞では動脈硬化（高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙による）で血管が狭くなったり、不整脈が原因で心臓から血の塊が流れて脳の血管が詰まることが原因です。脳出血は主に高血圧が原因で脳の内部の血管が破れます。くも膜下出血は脳の表面で出血し、多くの原因は脳動脈瘤の破裂ですが高血圧、飲酒、喫煙も危険を高めます。

脳卒中の症状は 1. 片方の手足、顔半分の麻痺、しびれがおこる。 2. 呂律（ろれつ）が回らない、言葉が出ない、他人のいうことが理解できない。 3. 力はあるのに立てない、ふらふらする。 4. 片方の目が見えない、物が二つに見える、視野の半分が欠ける。 5. 経験したことのない激しい頭痛がする。 などの症状です。

脳卒中の予防10か条

- ① 手始めに高血圧から治しましょう。
- ② 糖尿病 放っておいたら悔いが残る。
- ③ 不整脈 みつかり次第、すぐ受診。
- ④ アルコール 控えめは薬、過ぎれば毒。
- ⑤ 予防にはタバコを止める意志を持て。
- ⑥ 高すぎるコレステロールも見逃すな。
- ⑦ お食事の塩分、脂肪控えめに。
- ⑧ 体力に合った運動を続けよう。
- ⑨ 万病の引き金になる太り過ぎ。
- ⑩ 脳卒中 起きたらすぐに病院へ。

高血圧は家庭血圧で135/85以上が高血圧と診断されます。空腹時血糖値 110mg/dl以上では糖尿病と診断されます。タバコは脳梗塞とくも膜下出血の危険を増加させます。一日喫煙本数が10本以上では非喫煙者と比較して脳卒中のリスクは約7倍と極めて高くなります。そして禁煙により、リスクは半減します。

脳梗塞においては3時間以内の超急性期に詰まった血を溶かす治療（tPA）が適応となる場合があります。症状が出現した場合3時間以上経過すると治療の機会を失います。また、突然の強い頭痛はくも膜下出血の可能性もあります。脳卒中を疑う症状が起こった時には迷わず救急車を呼ぶことが極めて大切です。

（参考資料 日本脳卒中協会 ストップ！脳卒中より）

がん市民講座のご紹介

公立藤岡総合病院では市民の皆様方にむけた『がん講座』を開催しております。参加費無料、質問コーナーもあります。お誘い合わせのうえ是非ご参加ください。開催のご案内は、広報・当院ホームページ等で随時お知らせ致します。

	日 時	テ ー マ	演 者		日 時	テ ー マ	演 者
第1回	H19.12.15	がん遺伝子のはなし	外科 谷賢実	第5回	H20. 5.24	乳がんのはなし	外科 石崎政利
		大腸がんのはなし	外科 井出宗則			リンパ浮腫について	作業療法士 松山励悦
		ストーマ外来情報	看護師 花形光枝	第6回	H20. 7.26	前立腺がんのはなし	泌尿器科 武井智幸
悪性リンパ腫のはなし	血液内科 神保貴宏	抗がん薬との上手な付き合い方	薬剤部 秋葉博之				
第2回	H20. 1.26	胃がんのはなし	外科 森永暢浩	第7回	H20.10. 4	放射線治療について	群馬大学重粒子線医学研究センター 大野達也准教授
		胃がんの内視鏡治療と化学療法	消化器内科 秋谷寿一			群馬大学における重粒子線治療の取り組み	群馬大学 鈴木守学長
		胃手術後の食事とがん予防の食事	栄養室 竹内幸子			患者・家族が今、医療に求めるもの	高崎健康福祉大学 池田優子教授
第3回	H20. 3.15	肺がんのはなし	呼吸器内科 塚越正章			※第7回は特別講演として群馬大学の「重粒子線」治療をテーマにみかほみらい館で開催しました	
		肺がん手術のはなし	外科 吉田武史	第8回	H20.10.25	子宮がん・卵巣がんについて	産婦人科 遠藤 究
		呼吸リハビリのはなし	理学療法士 黒澤美奈子			緩和ケアについて	看護師 古池きよみ
第4回	H20. 4.19	肝臓がんのはなし	外科 志村龍男				
		肝臓食について	栄養室 竹内幸子				

発行： 公立藤岡総合病院 〒375-8503 群馬県藤岡市藤岡 942 番地 1
TEL 0274-22-3311（代表） FAX 0274-24-3161
URL <http://www.fujioka-hosp.or.jp/>

責任者 鎌田 真彦
地域医療連携課（直通） TEL 0274-22-6039 FAX 0274-24-7002